

2017 年度長安学プロジェクト研究成果報告

—14 年間にわたる学習院大学の 東アジア国際研究交流をふりかえる—

村松 弘一

本成果報告では文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「東アジアの歴史都市と自然環境—先端科学が拓く「古都・長安学」」（2013 年 9 月～2018 年 3 月、代表：鶴間和幸・文学部教授、通称「長安学プロジェクト」）の研究交流の一環として、2017 年 12 月から 2018 年 3 月にかけて実施した復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校からの招聘研究者 4 名による 4 回の講演を掲載する。開催日時、開催場所は以下のとおり。

- 学習院大学国際研究教育機構特別講演会 2017 年 12 月 8 日 学習院大学国際会議場
黄学超（中国・復旦大学中国歴史地理研究所講師）
『『水経注』に基づく漢唐間の昆明池水利システムの復原』
- 学習院大学・慶北大学校連携特別講演会 2018 年 1 月 12 日 学習院大学国際会議場
洪性鳩（韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科教授）
「韓国所蔵清朝（満文）文書について」
- 学習院大学・慶北大学校連携特別講演会 2018 年 2 月 23 日 学習院大学国際会議場
金知恩（韓国・慶北大学校師範大学歴史教育科助教）
「朝鮮後期門人録編纂の慣行と歴史研究への活用—19 世紀嶺南人柳致明の門人録を中心に—」
- 学習院大学国際研究教育機構特別講演会 2018 年 3 月 13 日 学習院大学国際会議場
張青瑤（中国・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員）
「清代山西北部地区における土地利用変化及び原動力の分析」

講演内容については、以下に掲載した各論文を参照いただきたい。

さて、本成果報告にて 2013 年度から 5 年間にわたって実施した「長安学プロジェクト」は完結する。それは、また、鶴間和幸氏を代表として 2005 年から 13 年間にわたって継続してきた学習院大学と復旦大学中国歴史地理研究所・慶北大学校師範大学歴史教育科・陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院との共同研究が一旦、完了することを意味する。

この間、実に50名以上の研究者を招聘し、バラエティに富んだ研究成果を得ることができた。まず、2005年度に採択された日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「東アジア海文明の歴史と環境」(2005年11月～2010年3月)では、学習院大学・復旦大学・慶北大学校と三者での共同研究をおこない、中国での黄河・海港・運河・水利などをテーマに共同調査をし、韓国では碧骨堤・清海鎮や鬱陵島をめぐる。日本では能登・十三湊・出雲などで日本海調査を実施した。それらの調査に基づく研究成果は、鶴間和幸編『黄河下流域の歴史と環境—東アジア海文明への道』(東方書店, 2007年)、鐘江宏之・鶴間和幸編『東アジア海をめぐる交流の歴史的展開』(東方書店, 2010年)、鶴間和幸・葛剣雄編『東アジア海文明の歴史と環境』(東方書店, 2013年)として刊行した。教育面では大学院生や若手研究者を相互に派遣し、また、「東アジア学交流講座」(のち、大学院人文科学研究科「国際文化学特殊研究」として単位化)を開設し外国人研究者による大学院集中講義を実施した。この最初の5年間は手探り状態で、何ができるか、できないかを判断しながら、国際研究交流をおこなった時期であった。この研究交流は鶴間和幸氏が所長であった学習院大学文学部人文科学研究科と村松が助教・准教授をしていた東洋文化研究所を拠点としておこなった。

さらに2010年度には日本学術振興会・頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「リモートセンシングデータを利用した黄河流域の歴史と環境」(2010年10月～2013年3月)に採択され、引き続き復旦大学中国歴史地理研究所と連携するとともに新たに陝西師範大学西北歴史環境と経済社会発展研究院を加えて黄河流域に特化した研究をおこなった。その成果の一部は鶴間和幸・恵多谷雅弘監修『宇宙と地下からのメッセージ—秦始皇帝陵とその自然環境』(D-CODE, 2013年)として出版し、また、以下のリストに示した論文を発表した。また、この間、慶北大学校とは学習院大学東洋文化研究所・東アジア学国際連携センター「東アジア学次世代研究者招聘プログラム」の経費を活用して招聘事業を継続した。

上記のような大規模な競争的資金によるプロジェクトを推進する拠点として、2012年に学長付国際研究交流オフィスが開設され、2015年には国際研究教育機構として常設化されることとなる。その過程で長安学プロジェクトが文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定され、復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校との共同研究を5年間実施し、今回、最後に残された成果をここに発表することとなった。

この14年間、私は学習院大学と3つの大学との絆が徐々に徐々に強まっていったことを運営側の一人として感じる事ができた。研究交流で培った絆を、さらに教育交流に活かそうと考え、2011年からはグローバル・キャンパス・アジアの学生派遣事業を企画・実施した。上海・西安・大邱のコースを開設したのは、その前段階の人と人とのつながりがそうさ

せたのである。2018年4月、長安学プロジェクトの終了とともに、国際研究教育機構も残念ながら廃止された。学習院大学側の受け入れ研究部局がなくなってしまったことは、機関相互の共同研究・教育の断絶を意味する。しかし、鶴間教授や私、そして国際研究プロジェクトのメンバー同士の人と人との絆はこれからも続くことだろう。外部の力に屈することなく、その絆が10年、20年、いや30年と継続されてはじめて、本当の意味での国際研究交流が達成できるにちがいない。私たちは、今、それを信じて、次のステージへと進むことにしよう。

以下、参考までに、2005年から2018年3月までの研究者交流と研究成果を以下に示しておきたい。これらの研究成果の積み重ねが今回の成果報告につながっているのである。

復旦大学中国歴史地理研究所との研究者交流と研究成果

- 朱 海濱 2006年7月 「近世江南民間信仰—祭祀政策と民間信仰の変遷を中心に—」（東アジア学交流講座）
- 楊 偉兵 2006年9月～2007年3月 長期招聘
- 張 偉然 2006年11月 「中国仏教修派形態の地域差異と地理環境」『東洋文化研究』10号、2008
- 安 介生 2007年9月 「区域歴史地理から見た中国伝統社会の変遷」（東アジア学交流講座）
- 鄒 怡 2007年9月～2008年8月 長期招聘
- 楊 偉兵 2008年9月 「雲貴高原の土地利用と生態変遷」（東アジア学交流講座／大学院人文科学研究科「国際文化学特殊研究」）
- 樊 如森 2009年5月～2010年3月 長期招聘
- 王 建革 2009年9月 「中国東部地区農業生態と郷村社会」（東アジア学交流講座／大学院人文科学研究科「国際文化学特殊研究」）
- 王 大学 2010年10月～11月 「清代江南における防波堤の管理にみる生態と制度的要素」（特別講演会，学習院大学国際会議場）
- 路 偉東 2011年11月～12月 「中国人口史研究とCGIS（Chinese Historical Geographic Information System）」（特別講演会，地球環境学研究所会議室）
- 徐 建平 2012年11月 「行政区画整理過程における境界と未確定地域」（特別講演会，学習院大学国際会議場）
- 孫 涛 2013年11月 「歴史地理研究におけるGISの応用：1855年黄河下流古河道復元の実践」『国際研究教育機構』1号，2015年

※以下、『学習院大学国際研究教育機構研究年報』は『国際研究教育機構』と称す。

- 任 小波 2015年1月～2月 「763年の吐蕃による長安陥落の再検討」『国際研究教育機構』2号, 2016年
- 齊 光 2016年1月～2月 「康熙年間の満文史料からみた西安周辺の気候・災害・農業・水利：清朝の帝国支配と自然環境」『国際研究教育機構』3号, 2017年
- 費 傑 2017年1月 「環境の変遷と人類の活動を背景とする渭河平原における塩湖の退化と枯渇」『国際研究教育機構』4号, 2018年
- 黄 学超 2017年11月～12月 「『水経注』に基づく漢唐間の昆明池水利システムの復原」『学習院大学国際センター研究年報』5号, 2019年

慶北大学校師範大学歴史教育科との研究者交流と研究成果

- 禹 仁秀 2006年7月 「朝鮮時代の社会と国家」(東アジア学交流講座)
- 崔 弘昭 2006年9月～2007年8月 長期招聘
- 洪 性鳩 2007年7月 「韓中関係史をどう理解すべきか」(東アジア学交流講座)
- 李 志淑 2007年9月～2008年8月 長期招聘
- 李 文基 2008年7月 「新羅史研究の新動向」(東アジア学交流講座／大学院人文科学研究科「国際文化学特殊研究」)
- 李 相勲 2008年9月～2009年8月 長期招聘
- 張 東翼 2009年8月 「高麗時代史研究の新動向」(東アジア学交流講座／大学院人文科学研究科「国際文化学特殊研究」)
- 金 政志 2011年1月～2月 「8世紀新羅の対日外交と交易—779年渡日使節団の事例を中心に—」(講演会, 東洋文化研究所会議室)
- 洪 性鳩 2011年12月～2012年1月
- 南 韓鎬 2013年1月～2月 「韓国と日本の歴史教育課程と教科書にあらわれた系列化」(講演会, 東洋文化研究所会議室)
- 李 相勲 2014年2月 「李成桂の威化島回軍」(講演会, 学習院大学国際会議場)
- 金 知恩 2014年2月 「朝鮮後期嶺南南人の形成と発展」(講演会, 学習院大学国際会議場)
- 南 廷昊 2015年1月 「百濟武王の王妃と義慈王の生母に関する考察」『国際研究教育機構』2号, 2016年
- 李 相勲 2016年1月 「新羅の馬と牧場」『馬が語る古代東アジア世界史』(鶴間和幸・村松弘一編)汲古書院, 2018年

- 金 康勲 2016年1月～2月 「遼東地域の高句麗復興運動と劍牟岑」『国際研究教育機構』3号, 2017年
- 兪 得順 2017年1月 「歴史映画の特性と歴史教材の有用性検討」『国際研究教育機構』4号, 2018年
- 洪 性鳩 2018年1月 「韓国所蔵清朝（満文）文書について」『学習院大学国際センター研究年報』5号, 2019年
- 金 知恩 2014年1月 「朝鮮後期門人録編纂の慣行と歴史研究への活用—19世紀嶺南南人柳致明の門人録を中心に—」『学習院大学国際センター研究年報』5号, 2019年

陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院との研究者交流と研究成果

- 張 莉 2009年9月～10月 「乾隆年間の天山北麓における土地と人々」『東洋文化研究』13号, 2011年
- 李 大海 2010年10月～12月 「山地開墾と社会の変遷：清代の黄龍山地域における地域開発史の再構築」『東洋文化研究』14号, 2012年
- 史 紅帥 2011年12月～2012年2月 「近代西洋人が見た西安城の景観」『世界の蒐集：アジアをめぐる博物館・博覧会・海外旅行』（伊藤真実子・村松弘一編）山川出版社, 2014年
- 潘 威 2013年11月 「GISと中国史における水文変化の研究」『国際研究教育機構』1号, 2015年
- 聶 順新 2015年1月～2月 「中唐長安における国忌行香制度の復原」『国際研究教育機構』2号, 2016年
- 肖 愛玲 2016年2月～3月 「前漢長安城における空間形成のメカニズム」『国際研究教育機構』3号, 2017年
- 高 昇栄 2017年1月～2月 「関中地区の農業用水制度の変遷と環境との関係」『国際研究教育機構』4号, 2018年
- 張 青瑶 2018年2月～3月 「清代山西北部地区における土地利用変化及び原動力の分析」『学習院大学国際センター研究年報』5号, 2019年

（むらまつ こういち 淑徳大学人文学部教授）